

平成 21 年度 環境安全技術系活動報告

大久保 興平

工学研究科・工学部技術部 環境安全技術系

1. はじめに

本年度の当技術系の人員構成は課長 1 名、課長補佐 1 名、環境技術班（班長 1 名、班員 3 名）、放射線技術班（班長 1 名、班員 3 名）、安全技術班（班長 1 名、班員 3 名）から成り、総計 14 名で構成されている。なお、環境技術班の班員の内 1 名は新規採用者（4 月 1 日採用）である。

2. 環境安全技術系の実施業務

環境安全技術系は主たる業務として、工学研究科及び全学の環境・安全・衛生に係る共通的な業務に従事しており、同時に各専攻・分野・研究室等からの依頼業務も行っている。

本年度は 2 月 4 日現在で長期業務（年度当初又は年度途中～年度末まで）36 件、短期業務（長期業務以外）12 件を受け入れてきた。

業務の形態としては、工学研究科及び関連部署（環境安全管理室、放射線安全管理室、核燃料計量管理室、Co-60 照射施設、専攻・分野の技術室、研究室）に室員等として 1～6 名の技術職員が出向の形をとり、依頼された日々の業務を行っている。また全学関連の部署については、核燃料管理施設及び災害対策室に各 1 名が同様の形で依頼業務を行っている。

依頼業務の内容については、上記の室等に出向して行う諸々の業務の他に、工学研究科から安全衛生巡視・安全衛生教育の実施・未登録核燃料物質等（毒劇物、化学薬品を含む）の調査に関する業務。全学の部署から環境安全推進本部から東山地区衛生管理者及びそれに付随する業務。環境安全衛生管理室から化学薬品管理システムのデータ更新・管理等、全学の有機・無機廃液・廃試薬等の回収。男女共同参画室からブース出展に係る支援（支援指導、助言、実験補助）。また環境学研究科から観測・実験計機の維持管理、学生実験支援等。エコトピア科学研究所から高エネルギーグループの安全衛生に関連する諸業務・実験支援等の業務依頼があった。

なお、工学研究科の専攻・分野、研究室からの依頼業務については次のものがあつた。航空宇宙工学専攻：危険物倉庫の管理、設備管理、安全教育。社会基盤工学専攻：学生実験支援、情報機器管理。電子情報システム専攻：学生実験支援・機器管理・運営。量子エネルギー工学分野：工作室の管理、共通設備管理。化学工学分野：学生実験支援：安全指導、実験指導・補助等。研究室支援：実験・研究補助、観測・実験機器の維持管理、情報機器管理、放射線設備の放射線測定、高圧ガス装置の設置に係る支援。

これらの業務は前年度と比べて、大きな変化はない。

3. 系の運営に関わる業務

3.1 系業務調整会議

系の運営を議論する目的で、今年度は電子メールによるものを含めて 5 回の会議を開催した（6 回目は 3 月に行う予定）。

第 1 回：平成 21 年 6 月 2 日、第 2 回：平成 21 年 7 月 2 日、第 3 回：平成 21 年 8 月 21 日（メール会議）、第 4 回：平成 21 年 11 月 11 日、第 5 回：平成 22 年 1 月 28 日（メール会議）

3.2 系専門委員会

系専門委員会は教員 5 人、技術職員 5 人で構成されており、本年度は次のように開催した。

第 1 回系専門委員会

日時：平成 21 年 7 月 28 日（火）13：30～14：20

内容：報告、環境安全技術系職員の採用計画、技術職員の支援分担金制度

3.3 系面談

各人の業務の実施状況、業務に対する希望、技術部・系の運営に対する意見・希望・不満等を把握するために昨年度は実施したが、本年度は電子メールや電話、また本人に直接会うことによる種々の意見・希望調査等によって代替し、正式な行事としては行っていない。

4. 系に関わる研修等

4.1 研修

今年度、当技術系が関わった技術部の研修等について列記する。内容等については名古屋大学技術研修会分を除き、本「技報」にも掲載されている。

- (1) 工学研究科技術部技術研修（研修期間：平成 21 年 4 月 13 日～11 月 30 日、発表：12 月 3 日）

振動台実験装置による家具・ポンベ台等の耐震性の検証

平墳 義正、大久保 興平、長嶋 宏弥

- (2) 平成 21 年度実験実習技術研究会（琉球大学、平成 22 年 3 月 4～5 日）

名古屋大学工学研究科における安全衛生教育に関する考察

齋藤 彰、松浪 有高、大久保 興平

- (3) 名古屋大学技術研修会（平成 22 年 3 月 9～10 日）

工学部・工学研究科での災害分析（口頭発表）

松浪 有高、岡田 嘉寿雄、齋藤 彰、堀木 幹夫*

*平成 22 年 3 月末退職

振動台実験によるポンベ台等の耐震性の検証（ポスター発表）

平墳 義正、大久保 興平、長嶋 宏弥

- (4) 高エネルギー加速器研究機構技術研究会（筑波、平成 22 年 3 月 18～19 日ポスター発表）

名古屋大学工学研究科における作業環境測定の実施

佐藤 絢子、近藤 一元*、齋藤 彰、松浪 有高、安達 幸男*、高井 章治*、宮嶋 伸好

*分析・物質技術系

4.2 講習会

今年度は次の要領で実施した。なお、内容等については本「技報」に掲載した。

日時：平成 21 年 9 月 11 日（金）16 時～17 時

演題：工学部・工学研究科の災害分析について

講師：岡田 嘉寿雄（環境技術班長）

参加者：自系技術職員 12 名、他系技術職員 2 名（内 1 名室長）、本研究科放射線系教授 1 名、

本学環境安全衛生管理室員 2 名、本学環境安全支援課 1 名

4.3 業務紹介

昨年度までは、各人が実施している業務について相互に理解を進めるために「業務報告会」の名称で1年に1回は系の構成員全員が業務報告（報告10分、質疑応答5分）を行ってきたが、ややマンネリ化の傾向となってきたため、本年度は新規採用職員に対する業務紹介も兼ねて、年度当初に「業務紹介」の名称で各人5分以内程度の内容で実施した。実施日等は次のとおりである。

実施日：平成21年4月27日（月）

場 所：工学部技術部会議室（7号館B棟313号室）

報告者：系を構成する技術職員全員（参加者：自系技術職員12名、室長）

4.4 出張報告会

技術部研修予算の内、学外専門技術職員研修、技術研究会、他大学及び研究機関との交流費用で支出したもののついて、その内容等を少なくとも系の構成員全員に知らせ、知識を共有する等の目的で実施している。今年度は、2月4日時点で次の出張報告会を実施した。なお、3月には2件の出張報告会が予定されている。

項 目 主催機関	開 催 日 開催場所	報告会 実施日	報 告 者
京都大学総合技術研究会 京都大学総合技術部	3月9日～10日 京都大学吉田キャンパス	4月27日	大久保、宮嶋、 熊沢、松浪
環境・安全シンポジウム2009 日本化学会 環境・安全推進委員会	3月29日 日本大学船橋キャンパス	4月27日	松浪
職場巡視・点検セミナー 中央労働災害防止協会	6月9日 名古屋市熱田区	7月10日	佐藤
化学安全スクーリング2009 日本化学会 環境・安全推進委員会	8月6日～7日 化学会館 東京都千代田区	9月4日	松浪
化学防災指針セミナー 日本化学会 環境・安全推進委員会	10月23日 インテックス大阪 大阪市住之江	11月5日	松浪

5. その他

5.1 本大学内の安全衛生研修等に対するサポート

(1) 名古屋大学新規採用職員研修（実施期日：平成21年4月17～24日）

全学技術センターにおける新規採用職員を対象とした安全衛生教育は平成18年度から開始され、平成19年度から本部事務局が主催する表記の研修の中に組み入れられたが、本教育は以降も毎年度実施されている。本年度は当技術系の久保、齋藤、松浪の3名が講師を務めた。

(2) 名古屋大学パートタイム勤務職員研修（実施期日：平成21年9月25日）

本年度から開催された研修である。演題は「安全管理体制と職場環境管理について」であり、講師は当技術系の齋藤、松浪が務め、全学技術センターの運営に寄与した。

（平成22年2月4日 脱稿）